13　　の最期 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　音便

安芸太郎、能登殿を見給つて申しけるは、「いかに猛うましますとも、われら三人取り付いたらんに、たとひ長十丈の鬼なりとも、Ⅰなどか従へざるべき」とて、主従三人、小船に乗つて、能登殿の舟にア押し並べ、「ゑい」と言ひて乗り移り、甲のしころをかたぶけ、太刀を抜いて一面にうつてかかる。能登殿ちつとも騒ぎイ給はず、まつ先に進んだる安芸太郎が郎等を、裾をウ合はせて海へどうど蹴入れ給ふ。続いてエ寄る安芸太郎を弓手の脇にとつて挟み、弟の次郎をば馬手の脇にかいばさみ、一締締めて、「いざうれ、さらばおのれら、死途の山の供せよ」とて、生年二十六にてⅡ海へつつとぞ入り給ふ。

【本文チェック】

①　ア～エの用言の、活用の種類（動詞は活用の行も）・文中での活用形を書きなさい。

　ア（　　　　　　　　活用　　　　形）

　イ（　　　　　　　　活用　　　　形）

　ウ（　　　　　　　　活用　　　　形）

　エ（　　　　　　　　活用　　　　形）

②人を表す語を十か所□で囲みなさい。

③傍線部Ⅰ・Ⅱについて、例にならって係り結びを指摘しなさい。

　（例）　冬こそいと寒けれ。

Ⅰ　な ど か 従 へ ざ る べ き

Ⅱ　海 へ つ つ と ぞ 入 り 給 ふ

【語彙力 ✚】

問１　次の語句の読みを、現代仮名遣いで答えよ。

１　長十丈〔２〕（　　　　　　　　　　）

２　郎等〔４〕（　　　　　　　）

３　裾〔４〕（　　　　　　　）

４　弓手〔５〕（　　　　　　　）

５　馬手〔５～６〕（　　　　　　　）

問２　次の語句の意味について、空欄を埋めよ。

１　猛し〔１〕　　①（　　　　　　　　　　　）

　　　　　　　　　②勢いが盛んである

　　　　　　　　　③精一杯である

　　　　　　　　　④まさっている

２　郎等〔４〕　 （　　　　　　　）

３　弓手〔５〕　 （　　　　　　　）

４　馬手〔５～６〕（　　　　　　　）

５　さらば〔６〕　①（　　　　　　　　　）

　　　　　　　　　②それなのに

　　　　　　　　　③さようなら

問３　次の傍線部の意味として最も適当なものを選べ。

１　などかこと物も食べざらむ。それがはねばこそ、とり申せ。（枕草子）

　ア　何を～か　　　　イ　どのように～か

　ウ　どうして～か　　エ　どうして～か、いや～ない

　（　　　）

【文法力 ✚】

問４　次の空欄に音便の種類を入れよ。

１　書きて　　　　→　書いて　　　　　（　　　音便）

２　おもしろくて　→　おもしろうて　　（　　　音便）

３　読みて　　　　→　読んで　　　　　（　　　音便）

４　散りて　　　　→　散つて　　　　　（　　　音便）

問５　次の傍線部の語について、音便の種類を後から選び、また、もとの形を答えよ。

　聞こゆるのといふ馬の、きはめて①太う ②たくましいに、の③置いてぞ④乗つたりける。（平家物語）

ア　イ音便　　イ　ウ音便　　ウ　促音便　　エ　撥音便

①　音便の種類（　　　）　もとの形（　　　　　　　　）

②　音便の種類（　　　）　もとの形（　　　　　　　　）

③　音便の種類（　　　）　もとの形（　　　　　　　　）

④　音便の種類（　　　）　もとの形（　　　　　　　　）

【探究】

問６　自軍の敗戦が決定しているなか、能登殿は敵方の武士たちを道連れに自害した。このことをあなたはどう評価するか。

ア　立派である。

イ　意味がない。

ウ　罪作りである。

（理由　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

【解答】

【本文チェック】

①　ア＝バ行下二段・連用　イ＝ハ行四段・未然

　　ウ＝サ行下二段・連用　エ＝ラ行四段・連体

②　安芸太郎〔１〕・能登殿〔１〕・われら（三人）〔１〕・（主従）三人〔２〕・能登殿〔３〕・能登殿〔４〕・（安芸太郎が）郎等〔４〕・安芸太郎〔５〕・次郎〔５〕・おのれら〔６〕

③　Ⅰ＝などか従へざるべき

　　Ⅱ＝海へつつとぞ入り給ふ

問１　１＝たけじゅうじょう　２＝ろうどう　３＝すそ

　　　４＝ゆんで　　　　　　５＝めて

問２　１＝勇猛だ　　２＝家来　３＝左腕（手）

　　　４＝右腕（手）　５＝それでは

問３　１＝エ

問４　１＝イ（音便）　２＝ウ（音便）

　　　３＝撥（音便）　４＝促（音便）

問５　①＝イ・太く　②＝ア・たくましき

　　　③＝ア・置き　④＝ウ・乗り

問６　（例）ア　敗北が決定している戦ではあるが、最後まで武士である気概を見せようとしたと考えられるから。

　　観点　能登殿の心情を考えてみたり、現代的な目線から考えたりと、自由に考えてよい。仏教的な観点からは罪作りな行為であり、極楽往生の差し障りとなる。能登殿はそれもわかったうえで行動したと考えられる。

【現代語訳】

問３　１　どうしてほかの物を食べないことがあるだろうか、いやない。それがございませんからこそ、（仏様のお下がりを）お取り申すのです。

問５　有名な木曾の鬼葦毛という馬で、非常に太くたくましいのに、金で縁取りした鞍を置いて乗っていた。